

畳の取扱説明書

「たたみ」をより良い状態で、少しでも長く、心地よくご利用頂けますよう取りまとめましたので、ご一読頂き、他の住宅機器取扱説明書と共に保管下さいますよう宜しくお願い致します。

【畳（イ草）の特性】

①湿度調整機能

湿度が高い時、無数の気孔から湿気を吸い取って中に貯え、部屋が乾燥してくると、スポンジ状の内部に貯えた水分を放出し、空気中の湿度を調整します。

②空気清浄作用

イ草にはホルムアルデヒドなどの有害物質を吸着する性質があり、優れた空気清浄機能があります。

③集中力アップとリラックス効果

イ草の香りや色、感触が適度に緊張をほぐして集中力を長続きさせ、イ草の香りの中には樹木と同じ成分が含まれ、リラックス効果があります。

④抗菌作用

水虫を引き起こす白癬（はくせん）菌や足の臭いの原因となる微生物の増殖を抑える抗菌作用があります。

【畳のお掃除】

畳のお掃除は、カラ拭きと掃除機でおこなってください。カラ拭きは、乾いたタオルなどで畳の目に沿って おこなってください。水拭きは、イ草が水分を吸い込んで湿気を含む原因になるうえ、汚れた水分で イグサを黒っぽく染めてしまうため、お勧めできません。

掃除機は、畳の目に沿って「中」くらいの吸引力でご使用ください。あまり強いと、ささくれの原因になります。ロボット掃除機や、回転ブラシ付き掃除機等は、へりや畳表をいためる場合がありますのでご注意ください。



【畳表面に付いている粉（染土）について】

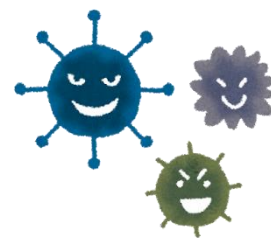
イ草は、毎年11月中旬から12月にかけて水田に植え、6月中旬から7月下旬にかけて150～160cmに伸びたイ草を刈り取ります。そのイ草を短時間でしっかり乾燥させ、表面を保護するという目的で、刈り取ってすぐに、天然の細かい土を水に溶かした泥水の中に浸けてから（泥染め）乾燥させます。

乾燥後、染土が付いたまま畳表を織りますので、染土が残っている事があります。ご使用前に乾いたタオルなどでカラ拭きして染土をとってください。この時、粉の取れ方で色むらが出るがありますが、ご使用とともに徐々に無くなっていきます。

【カビについて】

黄色く焼けた畳表より、新しい畳表はイ草が若く栄養分を豊富に含んでいます。イ草は湿気を吸収する能力が高い為、雨が続く梅雨時期などカビの発生リスクが高くなります。晴れた日は窓を開けて換気をして、雨の日は余計な外の湿気を出来るだけ入れないように窓を閉めるなどの対策を お願い致します。雨が続き湿気が高いと感じたら、エアコンや除湿機などで、こもった湿気を取り除いてください。また、畳の上に敷くじゅうたんやカーペットは、畳の呼吸を妨げ、湿気を畳の中に閉じ込める事になり、カビ・ダニの原因となりますのでお避けください。

万が一、カビが発生した時は、まずエアコンや除湿機などで畳を乾燥させてください。カビが乾いたら、タワシなどで畳の目に沿ってカビをかき出して、掃除機で吸い取ってください。仕上げに、5～10倍に薄めた消毒用アルコールを布に含ませて拭いてください。



【新しい畳だから】

切れたイ草・・・イ草は1本約1.4mmの細い天然の草です。畳を織っている段階などに切れてしまうイ草があり、イ草が立ってくることがあります。畳を敷き込む際に処理していますが、後から立ってきたイ草は手でちぎってください。そこからほつれてくる事はありません。

畳表の黒筋・・・畳表のイ草方向に、5mm位の黒ずんだ筋が付いていることがあります。これは1枚の畳を作る前に、長くつながった畳表を折りたたんでいた時の折筋です。丸いイ草が畳表の折り目部分でつぶれて楕円形状になり、色の差（本当は影です）が生じます。この折り目はご使用と共に徐々に戻っていきます。

へり際が白い・・・畳表は中央の部分とへり際の色を比べた時では、中央の方が緑が濃く、へり際付近では少し白っぽく見えます。これは、植物であるイ草を交互に並べて織り上げてある為で、植物の特性である穂先より株に近づく程、白くなっている（ネギをイメージしてください）のが現れているためです。また、日焼けなどによる変色も株の方より白くなっていきます。

【畳のメンテナンス】

裏返し・・・現在付いている畳表を一旦はずし、その畳表の裏面を使い、へりは新しくすること。新しい畳表から3年～5年が目安で、早ければ早いほど裏面は綺麗です。

表替え・・・現在付いている畳表をはずし、新しい畳表とへりをつけること。裏返し、又は、新しい畳表から5年～7年が目安です。

新畳・・・畳床、畳表、へりの全部を新品にすること。畳床の寿命は20年～30年が目安です。



畳と住宅資材の総合商社 山中産業株式会社

〒532-0011 大阪市淀川区西中島 4-6-20

TEL 06-6304-7521